

# 類義語「ごく」「いたって」の意味特徴について

大 島 資 生

## 1. はじめに

- (1) この料理の作り方はごく簡単だ。(作例)
- (2) この料理の作り方はいたって簡単だ。(作例)
- (3) 田中さんはごく普通の会社員のように見える。しかし、～(作例)
- (4) 田中さんはいたって普通の会社員のように見える。しかし、～(作例)

上のような例で「ごく」と「いたって」は相互に入れ替えることができ、ほとんど意味に違いがないように思われる。だが、この直観は本当に正しいのだろうか。ここでは、「ごく」「いたって」両語の意味の違いを、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)の用例を中心に検討する。

## 2. 「ごく」「いたって」が修飾する語

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)のコア・データ、非コア・データから、検索システム「中納言」を用いて「ごく」「いたって」両語の用例を抽出し、次の用例数を得た(2020年8月19日検索)。

「ごく」 …3,673例

「いたって」…276例

数にかなりの開きがあるが、「いたって」についても一定の用例が得られていると考え、本稿では、このデータを用いて検討を進める。以下、特に注記のないものはBCCWJの用例である。

表1・表2に、「ごく」「いたって」の被修飾語上位30位までを例数とともに

類義語「ごく」「いたって」の意味特徴について

挙げた。ここで、「ごく」の上位10語のうち「いたって」の上位30語と重なっているのは10語中3語のみ、逆に「いたって」の上位10語のうち「ごく」の上位30語と重なるのは5語のみである（表中網掛け部分）。このことから、両語は類義的ではあるが、表わす意味内容が一部重なる関係だと言える。

表1 「ごく」の被修飾語上位30語

	被修飾語	例数
1	普通	498
2	自然	314
3	一部	286
4	僅か	247
5	当たり前	155
6	最近	152
7	まれ	135
8	少数	123
9	簡単	109
10	限られた	89
11	一般的	85
12	たまに	60
13	小さな	59
14	短い	55
15	初期	54
16	少量	51
17	ありふれた	46
18	近い	44
19	親しい	41
20	平凡	39
21	少ない	37
22	軽い	36
23	単純	36
24	薄い	36
25	当然	32
26	身近	31
27	小さい	24
28	大雑把	21
29	微量	21
30	弱火	20

表2 「いたって」の被修飾語上位30語

	被修飾語	例数
1	簡単	39
2	普通	28
3	シンプル	25
4	健康	12
5	元気	10
6	単純	9
7	少ない	7
8	順調	5
9	冷静	5
10	自然	4
11	真面目	4
12	おとなしい	3
13	静か	3
14	平凡	3
15	無口	3
16	良い	3
17	のどか	2
18	穏やか	2
19	簡素	2
20	健全	2
21	堅い	2
22	事務的	2
23	単純明快	2
24	平然	2
25	無頓着	2
26	オーソドックス	1
27	クール	1
28	こざれい	1
29	さみしい	1
30	そっけない	1

### 3. 辞書の記述

「ごく」「いたって」両語の辞書による記述をみてみよう。表記、関係しない語義区分などの情報は省略して示す。

「ごく」

『日本国語大辞典第二版』

【二】〔副〕この上なく。きわめて。もつとも。

\*咄本・気のくすり〔1779〕浪人「『それが極（ゴク）よいのか』『うゑなしで御座ります』」

\*歌舞伎・お染久松色読販〔1813〕序幕「此左四郎へ極内々、咄しといふはあのお染、内の子飼とかうかうと、噂が有るとのわしへの相談」

\*交易問答〔1869〕〈加藤弘之〉下「中でも極貧乏な奴だの、懶惰者だのは、乞食にまでなる様な事があったそうでござる」

\*アカシヤの大連〔1969〕〈清岡卓行〉—「そのようなことは、ごく稀にしか起らなかった」

『デジタル大辞泉』

〔副〕普通の程度をはるかに越えているさま。きわめて。非常に。「一親しい間柄」

『明鏡国語辞典』第二版

〔副〕①程度がはなはだしいさま。極めて。「一親しい間柄」「一おおざっぱな報告」「一部の人が反対している」「一まれに副作用がある」②通常であるさまを強調していう。「一普通〔当たり前〕の生活」

『新明解国語辞典』第八版

〈副〉その程度が並はずれた（限界に達している）ものであることを強調する様子。「一親しい人／一上等の品／一少数の人しか知らない」

「いたって」

『日本国語大辞典第二版』

〈「いたりて」の変化した語〉非常に。きわめて。全く。

\*曾我物語〔南北朝頃〕一二・虎いであひ呼び入し事「親子恩愛のいたって切なる事」

\*日葡辞書〔1603～04〕「Itatte（イタッテ）ソレホド ゾンゼヌ〈訳〉その事について私はそう深く根本的には知らない」

\*仮名草子・浮世物語〔1665頃〕五・四「いたって拙愚に生れつきたる者は」

\*滑稽本・浮世風呂〔1809～13〕前・上「『どうも銭金といふやつはたまりませぬ』『イヤイヤ至（イタ）って溜能ものだ』」

\*滑稽本・続膝栗毛〔1810～22〕一一・下「はる名の池といふにいたる。これはいたっての大池にて」

\*日本開化小史〔1877～82〕〈田口卯吉〉一・二「上古の時代には、政府も至って質素にて」

『デジタル大辞泉』

〔副〕《「いたりて」の音変化》程度のはなはだしいさま。きわめて。非常に。

「一健康だ」「一陽気な性格」

『明鏡国語辞典 第二版』

〔副〕非常に。きわめて。「年老いたとはいえ一健康です」「操作は一簡単だ」

『新明解国語辞典 第八版』

〈副〉その程度が普通の水準を超えたきわめて進んだ段階にある様子。「一元気です／一質素な暮らしぶりだ／一物静かな紳士だ／私は一まじめだ」

両語とも「きわめて」「非常に」などの言い換えによって記述されている場合

が多く、意味的特徴の差異が明確にされているとは言えない。

『明鏡国語辞典 第二版』の「ごく」の記述は「①程度がはなはだしいさま。極めて。②通常であるさまを強調していう。」のようにほかの辞書では見られない語義区分を設けており、注目される。だが、二つの語義区分は一見矛盾するようにみえ、両者の関係がどのようなものなのか不明である。

#### 4. 「ごく」の用例と意味的特徴

まず、「ごく」の具体的な用例をみてみよう。(以下、下線は大島による)

- (5) 漁師はよく自分たちの魚が一番おいしいと言いますが、他の地域のものを食べて勉強している人はごくわずかです。(北海道新聞社編『発信北の食材』北海道新聞社 2002年)
- (6) ごくかすかな音だったが、岩田勝也には異様に大きく響いた。神経が過敏になっているせいだ。(今野敏『怒りの神拳 秘拳水滸伝3』祥伝社 1991年)
- (7) たまった水がエンジン等に悪影響を与えないよう工夫されていますが、ごくまれにこれが原因でエンジンが掛からない事があります。(Yahoo!知恵袋 2005年)

(5)～(7)の例のように、「ごく」は「わずか」「かすか」「まれ」など、量が少ないことや程度・頻度が小さいことを表わす語とともに用いられることが多い。さらに、「ごく」が修飾する「わずか」「まれ」には限定を表わす「しか～ない」が後接する例もみられる。

- (8) 日本の芸大や音大に相当する専門単科大学は、アメリカにはごくわずかしが存在しない。(『地球の歩き方』編集室|著作編集『アメリカ語学留学 2001—2002』ダイヤモンド社 2001年)
- (9) 内科の知識があればあるほど、ごくまれにしか発生しない特殊な病が脳裏

をかすめ不安が増幅する。(志賀貢『主治医』光文社 2005年)

(8)(9) では「しか～ない」によってその状況・状態に限定されることが明示されている。そこで以下では、状況・状態について「限定される」という特徴から「ごく」の用例をみてみたい。まず、「大雑把」「大まか」などを修飾する例をみてみよう。

(10) アメリカ政府周辺で日米関係にかかわる人たちには、いまごく大ざっぱにいて二つのグループがある。(古森義久『U.S.A. 報告 日本を視るアメリカの眼』講談社 1992年)

(11) 職種によってもいろいろ異なりますから、一概には言えないでしょうが、ごくおおまかにいえば、専門的な技術を要する分野の人たちは、役立っていると答えるでしょう。(福原義春『生きることは学ぶこと 成功 & スキルアップできる人間の発想法』日本文芸社 2005年)

(10)(11) に挙げた「ごく大雑把」「ごくおおまか」などの表現は、詳しく述べる度合いが限定されていることを表わすと考えられる。

2. でみた通り、「ごく」の用例の中で最も多かったのは「普通」を修飾するものだった(3,673例のうち498例)。「当たり前」も第5位(155例)で多い。これらの語に類似した意味をもつ「ありきたり」「ありふれた」の例もみられる。用例をみてみよう。

(12) アーネット特派員のようなケースは、欧米マスコミにおいては例外でなく、ごくふつうである。ニューヨーク・タイムズなども、外部に委託した専門家が、署名入りで記事を書いている。(松井茂『筆られる日本 国際貢献世界一のお人好し』ネスコ 1992年)

(13) 子どもの本の世界では、ライオンが喋ったり、甲虫が喋ったり、建物が喋ったりということはごくあたりまえにおこなわれますし、またおこな

われてきました。いわゆる擬人法ですね。(長田弘『読書百遍』岩波書店 1986年)

- (14) 彼は私と並ぶほどの長身であったが、講演会の前に挨拶に現れると、ごくありきたりな握手を交わした後、「うっしゃ!」と言って、いきなり独創的なガッツポーズをキメて見せた。(原田宗典『見たことも聞いたこともない』光文社 2003年)
- (15) 断っておくが、この話は想定したものだが、ごくありふれた、どこにでもあるような話であることを了承しておいて欲しい。(前畑民太郎『あなたの知的パートナー「P パーツ誕生」 超自己モノ表現時代の到来 無口な巨大モノ市場の謎』健友館 2001年)

(12)～(15)に挙げた「ごく普通」「ごく当たり前」「ごくありきたり」「ごくありふれた」などは、他と比べた場合に際立つ特徴が限定されており、その結果「珍しくない」「平凡だ」という意味を表わしている。

以上観察してきたことから、「ごく」の意味特徴は次のようにまとめることができる。

「ごく」…程度・範囲などが限定されていることを表わす

「ごく」がこのような意味特徴をもつことは、次のような例からも裏付けられる。

- (16) 「知っているといっても、ごく断片的な知識しかありませんので、もしよければ、詳しい状況を教えていただきたいのですが」(内田康夫『怪談の道』徳間書店 2005年)
- (17) 旧約聖書の預言者はごく地域的な現象でしかなかったし、概念的にもイスラームほど明確ではない。(小杉泰『ムハンマド イスラームの源流をたずねて』山川出版社 2002年)

「地域的」「断片的」などの語はそれ自身が全体の中に占める領域や分量について限定されている、ということを表わすからである。「ごく」はこういった語とも共起しやすい。

ところで、次のような場合、「ごく」は使いにくい。

(18) ?ごく 順調

(19) ?ごく 元気 Cf. ごく 健康

(18)の「順調」は、物事を進める際に支障がなく、はかどる程度が際立つことを表わす。そのため、状態・程度について限定されているという意味合いをもつ「ごく」とは意味的に相容れないため共起しにくい。(19)も同様に、「元気」は生気が十分にあるということで、体調が良い状態が際立つことを表わすため、「ごく」とは共起しにくいのだろう。他方、(19)に比較のために挙げた「健康」は「ごく」で修飾することができる。「健康」というのは、病気やけがをしているなど、平常時と異なった際立った状態がない、つまりそのような状態がない、もしくは限定・抑制されていると捉えられる。そのため、「ごく」とともに用いられるのだと考えることができる。

最後に、3. でみた辞書の記述についても述べておきたい。

まず、『明鏡国語辞典 第二版』では「ごく普通」などを別の語義区分として扱っていた。

『副』①程度がはなはだしいさま。極めて。「一親しい間柄」「一おおざっぱな報告」「一一部の人が反対している」「一まれに副作用がある」②通常であるさまを強調していう。「一普通〔当たり前〕の生活」

だが、上で検討した通り、「ごく」が程度／範囲が限定されていることを表わす、と捉えれば、二つの語義区分とされているものを統一的に扱うことができ、一見矛盾する語義を並べる必要がなくなる。挙げられている用例のうち、語釈



①の「ごくまれ（に副作用がある）」は例(7)(9),「ごくおおざっぱ（な報告）」は例(10), 語釈②の「ごく普通〔当たり前〕（の生活）」は例(12)(13)の箇所です。また、語釈①の「ごく一部（の人が反対している）」は全体の中の一つの部分に限定されていること,「ごく親しい間柄」は他者との心理的な距離が限定されていることだと捉えることができる。

もう一点, 3. でみた『新明解国語辞典 第八版』には次の用例が挙げられている。

(20) ごく上等の品

「上等」は品質が高いことを表わすため, 上で抽出した特徴とは相容れないようにみえる。だが, この例は具体的な品物についての記述と考えられ, 「上等な品」というのは数量的に限定されていると予想される。それゆえ「ごく」と自然に共起するのだと考えることができよう。

## 5. 「いたって」の用例と意味的特徴

「いたって」は次のように, 「ごく」と共通して修飾可能な語が多い。

(21) いたって シンプル／単純／自然／普通

(22) ごく シンプル／単純／自然／普通

また, 次のように「いたって」が「ごく」と自然に共起する「珍しい」「まれ」を修飾する用例も見られる。(以下, 下線は大島による)

(23) わきみず池でカワラヒワを観察する。本調査地ではいたって珍しい鳥になってしまった。(金子凱彦の野鳥調査 第132回

<http://hinonoshizen.sakura.ne.jp/kanekopagetop1811.html> 2020年8月31日閲覧・BCCWJ 外)

- (24) 「年齢分布は、以前から欧米では2～7歳の小児に多く、成人ではいたってまれであるとされていたが、最近では成人例の報告が増えつつある。」  
(畔柳達雄 (1997) 「急性喉頭蓋炎などによる窒息死と医師の責任」『耳展』40:4 480～487・BCCWJ 外)

(23)(24) の例における「珍しい」「まれ」は「見かけることがごく少ない、限られている」という意味合いを表わしており、「ごく」の「程度／範囲が限定されている」という意味合いと符合する。また、次の(25)の「最近」は現在の時点からの時間的距離が限定されているという意味合いだと捉えられるために「ごく」で修飾することが可能なのだと考えられる。

- (25) 「いたって最近の曲なんですけど リズムが Young wild&free にめっちゃそっくりな洋楽を耳にして なんの曲か知りたいんですよ 男性と女性と一緒に歌ってた気がします」  
(Yahoo! 知恵袋 20191008  
[https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q11214322756](https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q11214322756)  
2020年8月31日閲覧・BCCWJ 外)

- (26) ごく最近の曲

以上の例の「いたって」の意味合いは「ごく」と重なるようにみえる。だが、次の(28)のような例では「ごく」は使えるが、「いたって」を使うことはできない。

- (27) ごく 一握り／一部

- (28) ?いたって 一握り／一部

「いたって」は次のように言うことができる。

(29) いたって 少ない／少量／少数

「少ない／少量／少数」は次のように程度副詞「もっと」と共起できることから、程度性を備えた表現だとわかる。

(30) もっと 少ない／少量／少数

他方、「一握り」「一部」は全体のうちの限られた部分という意味合いをもつが、次のように「もっと」とは共起できず、これらは程度性を持たないと考えられる。

(31) ?もっと 一握り／一部

したがって、「いたって」は程度性をもつ表現について用いられるのだと考えることができる。4. で示した通り「ごく」は「ごく 一握り／一部」が自然で、「程度・範囲が限定されている」という意味合いを表わす。以上のことから、「いたって」の中心的な意味は「ごく」のような「程度／範囲が限定されている」とは異なると考えられる。

では、「いたって」はどのような意味合いを持つのだろうか。

「いたって」の意味的特徴を検討するため、まず「いたって」が修飾する語を考えてみると、たとえば4.の(18)(19)で挙げた「順調」や「元気」などがある。

(32) いたって 順調

(33) いたって 元気

こういった例から、「いたって」は程度が高いことを表わすようにもみえる。しかしながら、次のようなものをみると、単純に「程度が高い」とするのでは

記述として不足しているように思われる。

(34) いたって普通／一般的

4. でもふれたとおり、「普通」は「ごく」と共起しやすい語であった。

ここで、(32)の「いたって元気」という句がどのような文脈で最も自然になるかを考えてみると、次のようなものが想起される。

(35) 幼い娘の熱を計ったら39度近かった。だが、本人はいたって元気で機嫌もいい。(作例)

(35)では、「39度近」い熱があれば、普通はぐったりした様子だと予想されるが、その予想に反して「いたって元気」という状況が表現されている。

(35)と同様に「いたって」が明確に「予想・期待と異なる」という意味合いで用いられているものはBCCWJの中에서도見出すことができた。以下、用例を列挙する。まず、上の例と同じく「元気」の例として、次の例があった。

(36) 九日、午後一時、カミさんは手術室に向かった。自覚症状のまったくないカミさんはいたって元気だ。エレベーターまで送りに行った僕に、ストレッチャーに身を横たえた彼女は笑顔さえ見せて手を振った。(砂川啓介『カミさんはドラえもん』双葉社 2001年)

(36)で、「カミさん」は手術を受けなければならないほどの病状であるにもかかわらず、「いたって元気」ということが表現されている。

(37) こう書くと、時間加重収益率は難しいと思われるかもしれませんが、考え方はいたって簡単です。すなわち、時間加重収益率は、資金の投出入の時期を区切って時価の増殖率を算定するものです。(久保知行『わかり

やすい企業年金』日本経済新聞社 2004年)

(37) は、「時間加重収益率は難しいと思われるかもしれませんが」と予想を述べておいて、「考え方はいたって簡単です」としている。次の(38)も、「獰猛な顔や歯並びに反して性格はいたっておとなしい」と、予想・期待と現実が異なるという文脈の流れの中で「いたって」が用いられている。

(38) 体長2mを超すサンドタイガーシャーク（シロワニ）に大接近できる。  
獰猛な顔や歯並びに反して性格はいたっておとなしい。（『ダイビングワールド』2005年6月号（No.358, 第31巻第6号, 通巻395号）マリン企画 2005年）

(39) の例も同様である。

(39) なんだかふざけているようにも思えたが、少年がいたって真面目という顔をしているので、笑うことはできなかった。（原田純『ねじれた家帰らない家』講談社 2003年）

(39) でも「なんだかふざけているようにも思えた」という印象から予想されることに反して、非常に「真面目」な態度であるという文脈の流れがある。もう一つ例を加える。

(40) インテリアは革とウッドを多用したものだが、旧態依然のヴィクトリア調というのではなく、いたってモダンな現代のイギリス調だ。こいつは上品かつ、きわめて魅力的だ。このインテリアだけでもこのクルマを買う価値がある（徳大寺有恒『間違いだらけのクルマ選び 車種別徹底批評 2002年夏版』草思社 2002年）

(40) では、「革とウッドを多用し」ていることから、「旧態依然のヴィクトリア朝」になることが予想されるが、それとは反対に非常に「モダンな現代のイギリス調」である、ということが表現されている。

ここまで見てきた通り「いたって」の用例では、「元気」「簡単」「真面目」「モダン（＝現代的）」など平常と変わらないという意味合いの語句を修飾する例が目立つ。“特別な事態が予想・期待されるけれども、実際はそうではなく、通常の状態である”などの文脈の中で用いられているのである。

「ごく」に関しては、4. で述べた通り、「ごく普通」「ごく当たり前」など、「他と比べた際の際立つ特徴が限定・抑制されている」ということを表わす場合があった。「いたって」も「いたって普通」「いたって当たり前」「いたって少ない」など、同様の文脈で用いられることがある。それゆえ、「ごく」「いたって」の用法が意味的に重なることとなる。両語を類義語と考える所以である。

ただし、両者の間には解釈のプロセスに違いがある。「普通」「当たり前」「少ない」などを修飾する例において、「ごく」はある事物の状態・特徴について、他と比べて際立つ部分が抑制されている、ということを表わす。これに対して「いたって」は、一見、他と比べて際立つ特徴があるように予想・期待されるが、現実にはそうではなく、平常と変わらない状態である、ということを表現するのである。

だが、「いたって」が際立った特徴を示す語を修飾する場合もある。次の(41)のようなものがその例である。

(41) 「水のある場所？」八卦見みたいなことをいうと、小田木は一瞬おかしくなったが、斎藤はいたって真剣な表情で、前歯をむき出すようにして唇を？みしめている。(夏樹静子『Mの悲劇』光文社 1989年)

(41) の「真剣」のように、ある性質 X が非常の程度であることを示す場合、“別の、とくに反対の性質（～X）が予想されるけれども、実際は極めて X である”ということを表わすと考えられる。ここで、「いたって」は、予想や期

待と異なるという意味合いを表わしている。

先に挙げた (23) の例も同様に考えることができる。

- (23) わきみず池でカワラヒワを観察する。本調査地ではいたって珍しい鳥になっちゃった。(再掲)

この例では、もっとありふれた鳥だろうと予想していたが、実際には「珍しい」ということが表現されている。文末の「～なっちゃった」という表現にも意外さがあらわされている。

これらの例から、「いたって」は事物が予想・期待とは異なる状態にあることをあらわすのだと考えられる。

次の (42) は (41) のパターンの変形である。

- (42) キングスクラブ造成のとき、さんざん環境破壊、自然破壊をやってきちゃおきながら、いまさら何をといった感じだ。「それこそどんな面して見解を出すのか、見てみたいですね」「出す必要があるんだろうな。出さざるを得ないのかもしれん」「いま追い詰められてるのは、鑑見のほうですよ」 来島は顔をしかめ、言葉尻を上げた。「普通なら、静観しておく時期だ」「黙っていても相手は転んでくれるでしょう?」「それじゃあ、気が済まないんだろう」 椎名が言うと、来島はしたり顔になり、  
「一気呵成にいきこうってわけですか」「そうするための何かを? なんだか」「考えられるなあ」と来島は口許を綻ばした。こういった裏の話には いたって 貪欲な男だ。とはいえ、けっして軽薄な男ではない。口も固いし、手に入れた裏情報を表に出すか出さないかの分別もついている。(小川竜生『沸点 長編企業ハードボイルド』光文社 2001年)

(42) では、「来島」という人物について、「裏の話にはいたって貪欲な男」と述べるが、実は「けっして軽薄な男ではな」く、「口も固いし、手に入れた裏

情報を表に出すか出さないかの分別もついている」と評している。予想・期待と異なる内容が「いたって」の文に続く文で述べられている。

- (24) 「年齢分布は、以前から欧米では2～7歳の小児に多く、成人ではいたってまれであるとされていたが、最近では成人例の報告が増えつつある。」  
(再掲)

この例(24)では、「成人ではいたってまれであるとされていたが」と述べ、実は「増えつつある」と予想と異なる内容が続いている。(42)(24)ともに、文脈から予想・期待されることがらと実際との間に齟齬があるという流れの中で「いたって」が用いられている。

また、「いたって」の用例には、文章中に予想・期待が明示されておらず、読み手が推論を働かせる必要があるものもみられた。

- (43) 周囲を見ると、お椀ひとつのオジヤを2本のスプーンで突っ突きあって、日本酒を飲んで、侘び寂の境地に浸っているかのような熟年外国人夫婦。この夫婦がオーダーした酒の肴は、いきなりオジヤ1品のみ。ほかの外国人客もみんなセコさ極まる呑みっぷりを発揮しつつ、いたって陽気だ。僕たちは梅茶漬けとハツの焼き鳥。(田中良成『超貧乏旅』扶桑社1996年)

(43)では、注文のしかたが「セコ」いので、単に酩酊することを目的とした面白みのない飲み方をしていると予想されるが、実際は「いたって陽気」でガツガツしていない、ということをあらわしている。

- (44) 庄屋は、先祖に功労があつて、家柄もよく、苗字帯刀も許されたほどだが、当主の善左衛門は、人となりがいたって傲慢である。それに女色への執着が強い。狙った獲物はどうしても手に入れたらしい。(伊藤桂一



『仇討月夜 矢車庄八風流旅』学習研究社 2004年)

(44) も、「先祖に功労があつて、家柄もよく、苗字帯刀も許された」ことから、品格のある人物だと予想されるが、その予想に反して非常に「傲慢で」、しかも「女色への執着が強い」ということを表現している。類例を加える。

(45) 要するに、鞠の名手たるものは、懸木を伝つて降りてくる鞠の精を「へその緒」として、この深淵の空間にいつもつながっていることのできる人のことを言う、と成通卿は語りたいのである。しかもこの「へその緒」は、懸木の植えられた庭に鞠が勢いよく蹴り上げられたとたんにあられわれ、用事がすむとするすると自分でもとの住処に戻っていく、いたって便利な存在だ。(中沢新一『精霊の王』講談社 2003年)

(45) で、「鞠の精」は精霊なので、人間の意志とは無関係に活動すると予想されるが、その予想に反して人間にとって非常に「便利な存在」である、という流れである。

次の2つの例も、同様に考えることができる。

(46) 藤は花房が垂れる姿を生かし、掛け花や釣り花に用いるとよく映える。置き花にも用いるが、蔓の長いものは松などにかからませて用いる。蔓の長くないものはそのままいけられるので、花房がきれいに垂れ下がるように扱うだけでよい。藤の花房はふつう床に触れないように位置させるが、花房のごく長いものは房の先が床にとどくように扱うと、いたって雅びやかに見える。(講談社編『日本の花・伝統の花』講談社 1993年)

(46) では、花の生け方に関するルールに違反しているため、作品として成立しないと予想されるが、予想に反して「雅びやかに見える」ということが表現されている。

- (47) イソベンとは、居候弁護士略で、正式な所員ではないが、机を置いて、独自に弁護士活動をやっている者のことである。そのイソベンのふたりの机のひとつに、コケティッシュな若い女がいて、肘掛け椅子に掛け、体をねじって、赤井を見ていた。「コッ、コッ、コッ」と、笑ったのは、その若い女である。格好はいたって派手で、ショッキングピンク色のジャケットに、ラメが入った黒いパンツを穿いている。鈍い蛍光灯の明かりに、そのラメがキラキラ映えて、光っている。高野権兵衛の一人娘の、のり美だった。のり美は、二十三歳で、フリーターをしている。事務所にしょっちゅう出入りして、赤井が抱えている事件に首を突っ込むことを、好んだ。赤井に、一方的に惚れ込んでいる。赤井は、それを迷惑そうにしているが、女としてではなく、のり美という人間には、憎からぬ思いを抱いている。(志茂田 景樹(著)『トマト弁護士被告人の甘い囁き』実業之日本社 1991年)

(47) では、弁護士事務所にいる人物なのだから、かっちりとした服装をしていることが予想されるが、その予想に反して非常に「派手」であるということがあらわされている。

このように、文章中に明示されるか否かという違いはあるが、いずれも実際の状態・状況が「予想・期待と異なる」ということを表わしている。

また、(28)～(31)で示した通り、「いたって」が修飾できるのは程度性をもつ表現である。したがって、「いたって」は程度副詞であり、事物がもつ状態の程度を表わすと考えられる。

以上のことから、「いたって」の意味特徴を次のようにまとめる。

「いたって」…ある事物がもつ状態の程度が、文脈から予想・期待されるのとは異なっていることを表わす

## 6. おわりに

本稿では副詞「ごく」と「いたって」の意味特徴を考察・比較した。上で抽出した両語の意味的特徴を再掲する。

「ごく」…事物がもつ程度・範囲などが限定されていることを表わす  
「いたって」…ある事物がもつ状態の程度が、文脈から予想・期待されるのとは異なっていることを表わす

両語は状態・性質が限定されているという状況においては意味特徴が重なり合い、両語とも使える場合がある。しかし、上で観察した通り「いたって」は用いられる文脈に特徴があり、一部の用例において「ごく」と意味的特徴が接近するというメカニズムがみられた。

また、両語について、従来の辞書の記述では十分に捉えられていなかった特徴を指摘した。特に「いたって」は、前後の文脈に特徴がみられることを観察した。同様の特徴を持つ語は「いたって」以外にも存在すると考えられる。国語教育・日本語教育の観点からも、辞書などの意味記述においては、用いられる文脈の特徴を積極的に取り込んでいくべきだと思われる。

「いたって」については2.でも述べた通り「ごく」に比べてかなり少ない用例数しか得られなかった。今後さらに用例を追加し、今回抽出した意味特徴を検証したい。

／使用コーパス／

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

／参考文献／

北原保雄（編）（2010）『明鏡国語辞典 第二版』大修館書店

日本国語大辞典第二版編集委員会（2003）『日本国語大辞典第二版』小学館（ジャパンナレッジ利用）

類義語「ごく」「いたって」の意味特徴について

松村明（監修）／池上秋彦・金田弘・杉崎一雄・鈴木丹士郎・中嶋尚・林巨樹・飛田良

文（編）（2012）『デジタル大辞泉』小学館（ジャパンナレッジ利用）

山田忠雄・倉持保男・上野善道・山田明雄・井島正博・笹原宏之（編）（2020）『新明解

国語辞典 第八版』三省堂